

アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、スウェーデン、フィンランド

公立高校交換留学プログラム

High School Exchange Program

JAAC



JAAC

日米学術センター
Japan-America Academic Center

交換留学の意義と特徴

通常、交換留学の『交換』には、文化・人的な相互交流という側面を持っていますが、JAAC高校留学制度では、プログラム参加生とそのご家族に対して、日本に留学する高校留学生の受け入れをお願いすることはありません。あくまで、参加生がホストファミリーの家庭に滞在してその地元の公立高校で学ぶことを主眼としています。参加生は家族の一員として生活し、日本の文化や慣習、また日本人の考え方などを伝え、一方でホストファミリーからも生活様式を含めた慣習を学びます。あわせて、地元の公立高校では、学業に加えて、その高校に在籍している生徒や他国の留学生との交流を通じて相互の理解を深めます。

異文化での生活経験は、高校生の視野を広げ、自立心を養い、チャレンジ精神の大切さを気づかせてくれるはずです。その経験は一生忘れることのない貴重な財産となり、その後の人生の礎にもなることでしょう。

交換留学生は、ホストファミリー、ホストスクールの生徒、また留学生の身近な相談役となるエリアレップと称されるプログラム地域委員や、地域の人々など、自分を取り巻く多くの人たちのボランティア精神に支えられて留学期間を過ごします。

私立高校や他国の公立高校への留学(私費留学)とは異なり、

- ①留学生/保護者が、具体的に留学を希望する地域や学校を選択することができない
- ②ホストスクールとホストファミリーの決定が出発直前になる可能性がある
- ③留学派遣団体(本プログラムの場合、JAAC)が直接的に参加生を支援する業務を行ってはならない
- ④ホストスクールやホストファミリーの変更希望に対する制限
- ⑤厳格な入学審査などの大原則が存在する

これらが本プログラムの特徴です。

見方によれば非常にタフな留学プログラムですが、留学を終えた時の成就是他のプログラムでは味わえないものがあるのも大きな特徴と言えます。



7 merit 多感な高校時代に 異文化に触れることによる 貴重な体験

- 1 高校時代でしか体験できない、現地高校での生活、ホストファミリーとの生活
- 2 グローバル社会を生きる大切な基礎作り
- 3 自己の成長
- 4 異文化との相互理解
- 5 英語力、コミュニケーション能力の向上
- 6 大学進学への礎
- 7 授業料・ホームステイ費用の免除
※プログラム参加費、渡航費、ビザ申請料等は自己負担となります。



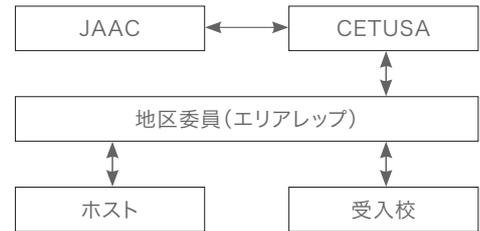
アメリカ公立高校交換留学プログラム

アメリカ公立高校交換留学とは

JAAC日米学術センターはアメリカ国務省認定の受入団体CETUSA (Council for Educational Travel, USA)と提携し、アメリカ公立高校交換留学プログラムを運営しています。

参加生は約10ヶ月間、ホストファミリーの家庭に滞在し、現地公立高校に通います。

プログラム運営組織図



団体紹介

CETUSA Council for Educational Travel, USA

1995年に設立された同団体は、米国4か所(ワシントン州、カリフォルニア州、ミシガン州、インディアナ州)にオフィスを設置し、公立高校交換留學生の受入の他、私立高校・大学留学プログラム、インターンシッププログラム、青少年の短期研修プログラム、アメリカ人学生の留学プログラム(アウトバウンドプログラム)など、各種教育事業を展開する非営利法人です。

公立高校留学の受入においては前述のアメリカ国務省認定の受入団体により組織された協会CSIETに加盟しており、50カ国以上の国々から毎年1000人の受入を行っています。CSIET加盟団体の中で受入人数の多い団体と位置付けられています。

CETUSAは、全米に約100名の地区委員(エリアレップ)を配置し、地域マネージャー、各ブロックごとの責任者、本部による適切な指導と連携のもと、全てのプログラム参加者に貴重な留学経験を提供しています。

ホストファミリーの選定においては、受け入れ希望の家庭に対する慎重な審査の実施、第三者審査機構による犯罪歴チェック、コーディネーターによる家庭訪問&面談などを通して良質な受け入れ家庭の選定を実現し、高い評価を得ています。

受入団体CETUSAの責任分野と主な業務

受入団体CETUSAの責任分野と主な業務	
渡米前	①参加生の選考(派遣団体推薦の生徒に対しての最終選考と可否決定) ②受け入れ家庭(ホストファミリー)の募集・審査・準備指導 ③各参加生の受け入れ家庭の選定 ④受け入れ高校(ホストスクール)の選定 ⑤派遣団体への選定先の情報提供 ⑥研修・交流ビザ(J-1)申請書類の作成 ⑦参加生の出迎え手配
留学中	①受け入れ家庭入居時のオリエンテーション ②受け入れ高校通学開始時のオリエンテーション ③参加生との定期ミーティングと派遣団体への月間状況報告書の提出 ④受け入れ家庭からの相談に対するアドバイス、派遣団体への情報提供 ⑤受け入れ高校からの相談に対するアドバイス、派遣団体への情報提供 ⑥プログラム期間を通じて参加生の保証人としての責務遂行 ⑦短期特別プログラムの企画と実施(オプション)

JAAC 日米学術センター

1978年、米国ミズーリ州が推進する日本との経済・文化交流促進政策の一環として、全米で初めて日本人学生を対象とする大学進学準備教育プログラムがサウスイーストミズーリ州立大学において始まりました。日本の高校生が無理なく米国大学へ進学できる様にカリキュラムを組んだ、この画期的な留学プログラムを、大学と共同により運営する現地留学支援機関として、JAAC(Japan-America Academic Center)日米学術センターは設立されました。

進学実績校は180大学を超え、これまでに総数1,800名以上の留學生の指導・支援を実施し、世界で活躍する優秀な人材を輩出しています。JAACは大学留学制度の発展と共に、中学・高校といった若い世代での国際交流と、自主自律の精神、広い視野を持った人間の育成を目指す高校留学制度の確立にも力を注いできました。アメリカ公立高校交換留学においては、受入団体CETUSAスタッフとの良好な関係と緊密な連絡体制を構築し、プログラムを運営しています。

JAAC日米学術センターの責任分野と主な業務

JAAC日米学術センターの責任分野と主な業務	
渡米前	①参加生の募集・正しいプログラム内容の説明 ②参加生の選考(プログラム入学審査の実施と第1次可否決定) ③受け入れ家庭・受け入れ高校選定書類の作成指導・確認 ④参加生の渡航前指導、カウンセリング ⑤受け入れ家庭・高校の情報提供 ⑥参加生の渡航準備支援(航空券手配、ビザ申請手続などのサポート) ⑦渡航情報等の受け入れ団体への連絡
留学中	①プログラム期間を通じて、受け入れ団体から提供される各種情報の翻訳と保護者送付、保護者との相談

交換留学の状況

アメリカ公立高校交換留学はアメリカ国務省が監督機関を務めており、国務省のガイドラインに沿って審査・認定された非営利法人のみが交換プログラムの運営を行う事が許可されます。これらの受入れ団体が集まって組織された協会CSIETには、現在62団体がメンバーとして加盟しています。受入れ団体が異なっても本交換プログラムのガイドラインは共通ですので、受入れ団体の良し悪しの判断は、ガイドラインの内容を忠実に実施出来ているか否かによって判断できると言えます。

国別留学生数

2016 - 17年度 130ヶ国から23716人がアメリカの公立交換留学に参加しました。最も多い派遣国はドイツの4986人、日本は782人で第9位でした。日本はここ数年800名前後を推移しています。

※CSIET 2012-13年度統計より

アメリカ公立高校交換留学 派遣国 トップ10	2位	スペイン	2368人	5位	ブラジル	1108人	8位	ノルウェー	801人		
	3位	イタリア	2109人	6位	中国	1074人	9位	日本	782人		
1位	ドイツ	4986人	4位	タイ	1350人	7位	デンマーク	858人	10位	フランス	731人

ホストファミリー・ホストスクールの選定までのプロセスと選定に要する期間

JAACによるプログラム入学審査の合格者は、ホストファミリー、ホストスクールを選定するための出願書類(アプリケーション)をJAACの指導を受けて英文で作成し、現地受け入れ団体に提出します。

提出された出願書類は現地受け入れ団体によって、全米各地域の地区委員(エリアレップ)の元に送られます。

その後エリアレップの居住する町やその周辺担当地域でホストファミリーやホストスクールの選定作業が繰り返され、受け入れ団体の承認を受け、最終決定されます。JAAC日本事務局は、ホストスクールとホストファミリーの決定情報を受けて、直ちに参加生・保護者にその内容をお伝えしますが、選定までに要する期間は参加生や参加生のお申し込み時期によって異なり、早期決定の場合は3月、遅い場合は8月下旬となる場合もあります。アメリカ国務省の指導では、遅くとも該当年の8月31日までは決定しないと規定しており、この期日を超えても決定されないというケースは稀です。

(このため、地域によっては9月に入ってから渡航することもあります。)

万が一、期日までにホストスクール、ホストファミリーが決まらない場合は、一時的に参加生を受け入れるホストファミリーとホストスクールが用意され、正規のスクールとファミリーの決定までの期間をその地で過ごすことになります。



在学留学と休学留学について

1年間の高校留学を希望される現役高校生は、留学を決意するうえで、在学留学あるいは休学留学の二つの選択肢のいずれかを決めることになります。以下にふたつの形態の一般的な定義をご紹介します。

1. 在学留学

日本の高校の在籍生が海外の高校で取得した最大1学年分の単位を在籍高校が認定し、帰国後も同級生と同じく次学年に進級する留学制度。

ただし、単位認定の判断基準は在籍高校の学校長の最終判断によりますので、事前に諸条件の確認を行う必要があります。また、大学進学の際の指定校推薦、AO入試などへの影響も合わせてチェックしましょう。

留学期間中の履修科目の選定や学業成績も重要になります。

2. 休学留学

日本の高校に対して1学年間の休学手続きを行い、帰国後は単位認定を求めずに日本の高校で計3年間学ぶことを前提とした留学の形です。卒業年齢が同年齢と比較して1年遅くなりますが、その分、高校の教育課程の履修科目や内容理解の面で充実度は高く、大学進学準備にもより多くの時間をかけられるメリットがあります。

ホストファミリーとの生活

アメリカ人家庭に滞在するということはどういうことなのでしょうか？

日本の家庭でも各家庭が違うように、留学生を受け入れるホストファミリーも千差万別です。アメリカでは特に人種、職業、収入、趣味趣向、ライフスタイル、家族構成や年齢、ペットの有無など様々な違いがあります。しかしながら、どのような家族であってもボランティアの精神を持って、1年近くの長期間、留学生を家族の一員として迎え入れてくれるという気持ちを持っているのが、本プログラムでのホストファミリーです。

参加生は、それぞれの家庭のホームルールに従って生活していきますが、様々な戸惑いや葛藤があるかも知れません。日本の自宅ならば、保護者の庇護のもと、許されることでもホスト宅では自分の思い通りにはいかないことも多々あることでしょう。JAACでは留学準備教育の一環として、成功するホームステイについて実例を基にしたケーススタディーを実施する過程で、参加生が充実した留学生活を送るノウハウを伝授し、本プログラムから得られる留学の醍醐味を体験していただきたいと願っています。



受入高校について

アメリカの高校は学区制で、住む地域によって通学する公立高校が決まります。本プログラム参加生もホストファミリーの居住する地区にある公立高校に通うことになります。アメリカの公立高校には、基本的に制服がありませんので、カジュアルな服装で学校に通学します。ただし、地域によっては、たいへんカジュアルではあるものの、制服が指定されている学校もあります。アメリカの高校卒業年齢は日本と同様で18歳ですが、4-4-4制、8-4制など学校と学年の区分に関しては各州によって異なります。小学校1年生をFirst Grade (1年生)、Twelfth Grade (12年生)と学年を通して称するのが一般的です。したがって、日本の高校生は、10年生、11年生、12年生となります。各学年は、毎年8月中旬~9月上旬に始まります。学期は前期・後期の2学期制で、それぞれ秋学期、春学期などと呼ばれています。

履修科目について

アメリカの公立高校では、日本の高校のように同学年、同コースの生徒が統一されたカリキュラムを受講するのではなく、生徒一人一人が、必修科目と選択科目を組み合わせ、履修科目を決めるスタイルを取っています。履修科目の決定に当たっては、スクールカウンセラーとの相談、承認が必要です。スクールカウンセラーは、日本の高校で言えば、担任の先生のような役割を果たし、生徒の興味、資質、進路希望などを考えて生徒にとって適切な履修科目を助言してくれます。必修科目には、英語(国語)、数学系の科目、社会系の科目、スポーツ各種、理科系の科目があり、選択科目には、美術、音楽、家庭科、外国語などの関連科目があります。在学留学として本プログラムに参加する場合は、日本の高校の先生と事前によく相談して、単位認定が確実に行われる科目を確認する必要があります。

履修科目の一例	English(英語)	Politics (政治)	Music(音楽)
	Algebra(代数)	Economics(経済)	Drama(演劇)
	Geometry(幾何学)	Sociology(社会学)	Dance(ダンス)
	Calculus(微分積分)	Biology(生物学)	Chorus(コーラス)
	World Culture (世界文化)	Earth Science (地学)	P.E.(体育)
	US History(アメリカ史)	Chemistry(化学)	Physics(物理学)
	Geography(地理)	Spanish(スペイン語)	French(フランス語)

クラブ活動について



学校のクラブ活動には通年活動する文化系のクラブとシーズンごとに行なわれるスポーツクラブに大別されます。参加生にとって、クラブ活動に参加することは、参加生の興味や特技を生かしてフレンドシップを築きたいへん良い機会です。また、クラブ活動のほかにも放課後や週末には、学校や学生たちが企画・主催するイベントがあるなど、学校生活を中心に活動的な日々を送ることができます。学校によっては、各種のボランティア活動を通して、地域コミュニティの人々と積極的に関わる機会を用意していますので、関心を持って参加するように心がけましょう。

留学で培った英語力、チャレンジ精神と適応力で新しいトビラを開く！

プログラム参加生 栗山希美さん

派遣先:アメリカ テキサス州 ナバソタ市 受入先高校:Navasota High School

私はこの留学を通して、英語力はもちろん、チャレンジ精神が磨かれたと感じています。留学前、私は奥手な性格で新しいことをするとき、はじめの一歩を踏み出せずにいました。そんな自分を変えたいと思ったのも、この留学をしようと思った理由の一つでした。いざ留学が始まってみると、周りに自分の知らない場所、知らない人に一人ぼつんと置かれ、今まで感じたことのない不安に駆られました。しかし私は中学生の頃から得意だったフルートをアメリカでもやってみたくて学校のバンドに入ることにしました。そこでは、私の留学生活はバンドなしでは語れないというほどにたくさんの思い出がありました。特に印象深いのは、フルートの三重奏の大会に参加できたことです。私はフルートパートの友人2人と毎日練習し、先生にも個人的にレッスンしてもらいました。そのおかげで、私たちはヒューストン予選を最高評価で通過し、テキサス州の大会にまで出場す



ることができました。このことは私にとってとても貴重な経験で、今までの成果が認められてこの上なく嬉しかったです。他にもマーチングバンドとして毎週末にアメリカンフットボールの試合に参加したりと、バンドではかけがえのない思い出と友だちができました。“アメリカでフルートをやる”ということにチャレンジしてみたら自分が想像もしてしなかつた素敵な世界が待っていました。挑戦してみても本当に良かったです。

また、私は留学中、文化や考え方の違いの多くを学びました。特に学校の教室は、日本の静かな雰囲気とは反対に、いつも生徒の意見や質問の声であふれていました。彼らは周りを気にすることもなく次々話すのです。その中で“何も言わないと自分の思いは伝わらない”という、日本の“察する文化”との違いを肌で感じました。週末のホストファミリーとレス

トランを訪れた時は、店員さんと接する機会がありましたが、彼らは、私に以前の友人であるかのようにフランクに話しかけてくれたことが印象的でした。日本の“おもてなし”とはまた別の良さがあるって興味深かったです。国の文化や考え方はそれぞれの場所の良さを表しているものだと思います。私は、“日本だから”、“アメリカだから”というような偏った考えではなく、どんな違いも受け入れられるような人になりたいです。これから、私はこの留学で培った英語力、チャレンジ精神、そしてどんな状況にも適応していく力を生かして、資格取得はもちろん、ボランティア活動などの今まで足を踏み入れたことのないことにも挑戦して視野を広く持てる人間になれるよう努力していきます。留学は、行く前の私に足りなかつた力を与えてくれました。留学に行っても本当に良かったです。



プログラム参加生 保護者の声

JAACのサポートのおかげで無事に留学生活を送ることができました。

飛行機に乗った事のない息子を海外に送り出すことはとても心配でしたがJAACの皆様のお力をお借りして、無事に留学生活を送れたことに心から感謝いたします。困ったことや相談事に丁寧に対応して下さいここまでサポートしてくれるところはなかなかないと思います。出発前はオリエンテーションなどでスタッフの方々にお目にかかれたことで安心できました。留学には様々な準備が必要で、そのひとつひとつは初めてのことが多く、分からないことも心配なこともありましたが、VISAの申請、チケット、保険の申込みもJAACさんが段取りを下さったのでその点も心配はありませんでした。留学中にいただいたレポートは日本にいる私達に喜びと安心を与えてくれました。また留学中のささいな心配にも相談にのって下さり、その度にJAACさんを選んでよかったです。息子の留学を様々な形でサポートしていただき、本当に感謝しています。

(参加生R.Sさんのお母様より)

大家族ホストファミリー、高校のバンド活動で心躍った留学生活は私の宝物！

プログラム参加生 高岡祐奈さん

派遣先:アメリカ ユタ州 スプリングビル市 受入先高校:Springville High School

「ついに来てしまった。」空港についた瞬間、思わず口に出てしまいました。期待も不安も緊張も興奮も一つに凝縮され、自分の体を駆け巡るような。そんな熱くて不思議な感覚とともに私の留学は始まりました。

その感覚はアメリカを離れる最後の一分一秒まで続きました。私はそれに導かれるようにその一年間たくさんのものを感じ、吸収することができました。

まずはホストファミリーからたくさんのもをもらいました。私のホストファミリーはホストファザー、ホストマザー、そして6人のホストブラザー、ホストシスターがいました。日本では一人っ子の私にとって、そんな大家族の中で生活することは大きな衝撃でした。大きなテーブルを皆で囲む食事、食事の後、お皿でいっぱいになるシンク。家中に散らばる誰かの服、おもちゃ、おかし。朝から晩まで家中に響き渡るホストブラザーたちの笑い声、泣き声、喧嘩してる声。正直大

家族というものを私は見くびっていました。「一人になりたーい！」毎日家の中で繰り広げられる大混乱の中、そう叫びたくなる時もありました。でもその家族の人数の分、楽しみや喜びも沢山ありました。誰かが誕生日のとき、学校で良い成績を取ったとき、家族全員で喜ぶ、応援する。ホストファミリーとの生活の中で私はそんな大家族ならではの一体感、絆を強く感じました。たとえ喧嘩しているときでもそこには愛がありました。一切誇張ではありません。家族が愛で溢れていました。

更に、私は高校の中でもたくさんのおを吸収することができました。特にウィンドシンフォニーバンドの一員として活動したことが高校生活の基盤となり、深い影響を与えてくれました。参加募集が締め切られるところを先生に頼みに行くところから始まったバンド生活。定期的に行われるコンサートだけでなく、アメリカンフットボールやバスケットボール



の試合での演奏、コンクールにも参加させてもらいました。放課後の練習などからバンドの仲間との距離は縮まっていきました。一緒に音楽を演奏することで言葉、国境の壁を軽々と超えるようにバンドの中でたくさんの友達ができました。最後のコンサートで舞台上で先生から一人のバンドメンバーとして自分の名前が呼ばれ、観客にも演奏する仲間にもたくさん拍手をもらったことは一生の思い出です。

アメリカでの一年間は人生の中でもっとも濃く、充実した一年間となりました。まさに「心躍る」一年。たくさん笑って、たくさん悩んで、泣いて、迷って、喜んだ一年。たくさん心が揺れ動いたこの一年は私にとって宝物であり、これからの人生の中で大きな道標として助けてくれるものとなると、帰国した今、確信しています。



プログラム参加生 保護者の声

留学がこれからの人生に向けて良いスタートになる事を願っています。

当初、この留学は息子にとって大変厳しいものであったと思います。言葉の速さや、文化、考え方の違いにとまどい何度もくじけていたと思います。けれど、一人で何でもやっていかなくては行けない経験が出来た事は本当に良かったです。自分と葛藤しながら学んでいくことが出来たと思います。一時は病気になる大変心配しましたが、学校生活は友人にも恵まれ何より充実していた様です。帰国後は心身共に大きく成長している事に日々感動しております。何より家族との時間を大切にしてくれる様になり、当たり前のように感動できる様にもなったと思います。英語を話すスピードと発音も全く変わって帰ってきました。自分に自信がついたのかよく話し、ユーモアも増して前向きにこれからの事を考えています。留学がこれからの人生に向けて良いスタートになる事を願っています。

(参加生H.Kさんのお母様より)

オーストラリア・ニュージーランド交換留学

オーストラリアについて

気候に特色が強いオーストラリアには美しい自然風景が溢れており、穏やかで開放的かつ多様な人々が住んでいます。小さな村や近代都市、ビーチタウン、あるいは自然の中で学ぶこともできます。リラックスしたライフスタイルとエキゾチックな動植物、熱帯雨林。更に辺境の地の奥地の探索は、まさに冒険と言えます。留学先はオーストラリア全土、外国語として日本語のクラスを実施している高校も少なくありません。日本文化や日本語に興味のある生徒も多いため、友達を作りやすいのもオーストラリアの高校の特徴の一つです。

首都: キャンベラ 人口: 2400万人 公用語: 英語



ニュージーランドについて

ニュージーランドは主に北南2つの島から成る国で、どちらの島でも冬にはスキーを楽しめますし、夏にはビーチで海水浴やサーフィン、ダイビングを楽しめます。自然が豊かなだけでなく、オークランドやウェリントン、クライストチャーチといった大都市もあります。ニュージーランドの学校では、たくさんの科目を、形式張らずかつフレンドリーな雰囲気の中で学ぶことができます。

首都: ウェリントン 人口: 480万人 公用語: 英語



派遣先: オーストラリア、ニュージーランドの国の選択はできますが、選択した国内の地域・都市を選ぶ事は出来ません。

滞在先: ボランティアのホストファミリー家庭に滞在します。

留学期間: 1月下旬～11月下旬

配属学年: オーストラリア 10年生(高校1年)、11年生(高校2年生)

ニュージーランド 11年生(高校1年生)～13年生(高校3年生)

団体紹介

Student Exchange Australia New Zealand

Student Exchange Australia New Zealandはオーストラリア(シドニー)並びにニュージーランド(ウェリントン)にオフィスを設置し、世界各国からの留学生の受け入れを行う団体です。オーストラリア、ニュージーランド全土に地域コーディネーターを配置し、留学生の受け入れ手配、留学中のサポートを提供します。交換留学の他に同団体は私費留学プログラムやオーストラリア・ニュージーランドの高校生が世界各国に留学するアウトバウンドプログラムも運営しています。JAAC日米学術センターは日本人学生の送り出しだけでなく、同団体から日本に留学する高校生の受け入れ事業にも携わっており、毎年20名程度の高校生の受け入れをおこなっています。尚、同団体は品質マネジメントシステムに関する国際規格ISO9001を取得しています。

スウェーデン・フィンランド交換留学

北欧に住む人々の幸福指数は世界でも最高レベルである事で有名です。また留学先としては、ヘルシンキやコペンハーゲンといった洗練された都会の素晴らしさを肌で感じられる地域でもあります。アウトドアを楽しんだり、独特の食文化を味わったりすることができる他、北欧の芸術、デザイン、音楽文化は世界中に影響を与えています。スウェーデンの大都市であるストックホルムは『世界で一番長いアートギャラリー』と呼ばれています。

ウィンタースポーツはもちろん、池や森、ビーチといった自然も身近なため、夏にも楽しみがたくさんあります。言葉の壁もほとんどありません。

留学中に現地校で使う言語はスウェーデン語、フィンランド語になりますが、プログラム申し込み時にそれらの言語知識を有している必要はありません。また、両国ともに初等教育から高いレベルの英語教育が実施されており、ほとんどの人が英語を流暢に話す事が出来ます。そのため、スウェーデン語、フィンランド語が喋れなくても、英語を使えば生活に困る事はほとんどありません。



スウェーデンについて

首都: スtockホルム 人口: 990万人
有名なもの: Skype、H&M、IKEA、ノーベル賞
公用語: スウェーデン語

フィンランドについて

首都: ヘルシンキ 人口: 550万人
有名なもの: ハイテク産業、サウナ
公用語: フィンランド語、スウェーデン語

派遣先: スウェーデン、フィンランドの国の選択はできますが、選択した国内の地域・都市を選ぶ事は出来ません。

滞在先: ボランティアのホストファミリー家庭に滞在します。

留学期間: 8月中旬～6月中旬

配属学年: スウェーデン 10年生(高校1年)～12年生(高校3年)

フィンランド 10年生(高校1年)、11年生(高校2年)

※フィンランドは学年生が無い為、生徒がコースや教科を選択します。

言語について: 授業は留学先国の言語(スウェーデン語、フィンランド語)で行われますので、言語の学習に取り組む必要がありますが、プログラム申し込み時にそれらの言語知識を有している必要はありません。プログラム選考では英語力試験を行います。

団体紹介

explorius

exploriusはノルウェー、フィンランド、スウェーデン、デンマークの北欧4か国にオフィスを置く北欧最大級の留学機関です。北米、中南米、ヨーロッパ諸国、アジア諸国の留学団体と幅広いネットワークを構築し、世界各国からの留学生の受け入れ、北欧の生徒の世界各国への留学プログラムを運営しています。北欧と世界各国の高校生の国際交流と教育の中心的存在となっています。

ホームステイについて FAQ

Q 滞在先の地域指定はできるのでしょうか？

A 本プログラムは参加生とその受入を行うホストファミリーや現地高校の学生と、地域の人々が様々な体験を通して相互に学び合い理解と交流を深めることを主たる目的としている為、参加生の希望による留学先の指定はできません。

Q アメリカの気候はどんな感じでしょうか？

A 国土が日本の25倍もあるので、一概には言えませんが大陸性の気候です。西海岸、東海岸、南部の州を除いて基本的には夏は蒸し暑く、冬は寒さが厳しいです。春と秋は2週間程度でしょう。日本に比べると厳しい気候だと言えます。

Q 到着したとき、空港には誰か迎えに来てくれるのでしょうか？

A ホスト宅の最寄の空港にはエリアルレップとよばれ、滞在中に現地であなたの生活・勉強面をサポートしてくれる地域委員があなたの名前が書かれたプラカードを持って待っています。また、ホストファミリーが直接空港に迎えに来てくれる場合もあります。

Q 滞在中、お小遣いのなどのお金は送金してもらうのでしょうか？

A 18歳以下の場合、銀行口座の開設はできません。現地に必要な現金は、海外で使えるキャッシュカードを作成し、現地のキャッシングマシン(ATM)を利用します。日本の保護者口座から後日、円換算にて引き落とされる形になります。この機会にお小遣い帳をつける習慣を学ぶのも良いでしょう。

Q アメリカの田舎は交通機関が発達していないと聞いています。通学や買い物はどうしたらよいのでしょうか？

A 確かに、大都市を除いてアメリカでは電車・バス等の公共交通機関は発達していません。滞在先によって異なりますが、学校へは通常、スクールバスで通学します。ホストの中には朝は車で送ってくれるところもあります。買い物はホストファミリーやエリアルレップが、週末などを利用してスーパーマーケットやショッピングセンターに連れて行ってくれます。

Q 日本からどの程度、洋服をもっていけばよいのでしょうか？

A 滞在先によって気候も大きく異なります。渡航の時期は夏でするのでTシャツやジーンズなど軽めの服装で十分です。ただ、建物内は冷房がかなりきついので、例えば学校の教室内で着る長袖のスウェットシャツなどは持参したほうが良いでしょう。また、地元で購入するほうが、郵送代を考えると割安の場合もあります。

Q プログラム期間中に旅行はできますか？

A ホストファミリーや責任能力のある大人(25歳以上)とであれば、エリアルレップに事前に許可を得た上での旅行は可能です。また学校主催の旅行がある場合もあり、その際もエリアルレップに連絡することになっています。

Q 留学先各国のどのあたりに滞在するのですか？

A このプログラムは安全・治安に十分注意を払われています。よって滞在先は田舎が中心となります。よく留学先に日本人が沢山いて…という話を聞きますが、その心配はないでしょう。ひょっとしたらあなたの滞在先の街や学校で日本人留学生に会わない可能性も大です。





[本部]

〒430-0933 静岡県浜松市中区鍛冶町 140Cビル 10F

[東京オフィス]

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 3 丁目 2-4 共同ビル(日銀前) 3F

MAIL:admission@jaac.co.jp

お問い合わせはこちらへ

フリーダイヤル: **0120-525-626**

JAAC各種留学プログラムは
www.jaac.co.jp



JAAC留学制度 現地指導・支援サポートオフィス

アメリカ/ミズーリオフィス	サウスイーストミズーリ州立大学内 One University Plaza MS2000, Cape Girardeau, MO63701-4799
アメリカ/カリフォルニアオフィス	2276 Meyer street, Cosat Mesa, CA 92627
アメリカ/ボストンオフィス	50 Congress Street, Suite 730 Boston, MA 02109
カナダオフィス	05-2006 Troon Court Victoria BC V9B 6T4
オーストラリアオフィス	Shoji Australia Office 2, 272 Stirling Hwy, Claremont WA 601
ニュージーランドオフィス	EduKIWI 1/29 Acheron Dr, Riccarton, Christchurch 8041

JAOS 一般社団法人
海外留学協議会
Japan Association of Overseas Studies

JAAC日米学術センターは、JAOS海外留学協議会の正会員です。

「JAOS海外留学協議会」日本国内の留学団体が、留学事業の健全な発展のために組織している一般社団法人。留学事業者向けのガイドラインの制定、各国大使館等との協力・連携、留学カウンセラーの教育など、留学業界全体の質の向上に積極的に取り組んでいます。